

令和3年度 市政広聴会実施報告書

令和3年9月

丹波市

ふるさと創造部 総合政策課

令和3年度 市政広聴会の実施報告について

1. はじめに

市民が誇りを持って「帰ってこいよ」と言えるまちづくりを進めるため、コロナ禍における広聴事業の一環として、招集や密接を避けオンラインを活用した Zoom による市政広聴会を対象者別に実施しました。

この度の広聴会では、要望会的な趣でなく、これまで広聴の場に参加が少なかった学生や女性から、「帰ってこいよ」と言えるまちづくりのテーマに沿った提案や、貴重な意見を拝聴することができました。特に、子育て世代や学生の意見は、「丹の里創生総合戦略」において、政策ターゲットを 10～30 代に設定して重点的に施策を推進することとしており、子育て世代をメインとした分野横断的に取り組むプロジェクトを進めるうえで参考にして取り組んでいきます。

また、テーマにつながる提案意見のなかで、丹波市で暮らすことの価値を市民が実感し、それを発信することで共感を生み、共感が動機になって交流が生まれ、関係が構築されることによって関係人口が創出・拡大され、移住へのつながりを意識した取り組みが必要であることを再認識する機会になりました。

最後に、今回の広聴会はコロナ禍でオンラインでの広聴会の開催となりましたが、各分野や若い世代の方にも参加いただくことができたことや、会場入口とゆめ広場のモニターで意見交換の様子を放映したことで、広聴の場を知っていただける機会となったことなど、参加者からも大勢の集まる場では発言しにくい面があるが、モニターを通して市長との直接意見交換ができたことは、有意義であったとの声もありました。

引き続き市民に寄り添えるよう広聴の重要性を職員全体で共有するとともに、市の施策や事業などを世代に応じた情報発信をすることで、市民の市政への関心を高め、各世代から意見を拝聴する広聴事業の充実を進めてまいります。

2. 実施日程

開催日時：7月24日（土）、8月1日（日）、8月8日（日） 各日 13時30分～15時

開催場所：市民プラザ

3. オンライン参加者「対象者」

7月24日（土）「学生対象」

柏原高等学校（2人）・氷上高等学校（1人）・氷上西高等学校（2人）、丹波市立看護専門学校（2人）、市内出身大学生（2人） 計9人（出席者：市長ほか関係部長5人）

8月1日（日）「女性対象」

久下自治振興会（1人）・Tプラス・ファミリーサポート（1人）・どんぐり食堂（1人）、氷上子育てサークルぴよんぴよんクラブ（1人）、丹波市PTA連合会（1人）、丹波市商工会女性部（1人）、丹波根っこの会（1人） 計7人（出席者：市長ほか関係部長5人）

8月8日（日）「一般・団体対象」

たんば“移充”テラス（2人）・個人事業主（1人）・株式会社 IPP0（1人）、丹波市地域交通活性化協議会（1人）、丹波市商工会事務局（1人）、農の学校事務局（1人）、農の学校卒業生（1人）、森の都研究所（1人） 計9人（出席者：市長ほか関係部長5人）

参加者延べ 21組 25人 会場傍聴者 20人※職員を含む

4. 主な提案意見・回答一覧 ※主な意見・回答を要約し記載しています。

7月24日(土)「学生対象」

柏原高等学校(2人)・氷上高等学校(1人)・氷上西高等学校(2人)、丹波市立看護専門学校(2人)、市内出身大学生(2人)

分類項目	7月24日開催【学生対象】提案意見
産業経済 まちづくり	<p>【丹波の活性化や知名度を上げるための「まちあるき」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究の授業のまちづくり班で、丹波の活性化や知名度を上げるための「まちあるき」を検討している。「まちあるき」により経済効果や、地域の外国人労働者、外国人の親世代の交流、マスコットキャラクターの知名度の向上や交流人口増加を期待したい。
(回答)	<p>地域活性化は、人と人との結びつき・集い活動して活性化する。市内外の人に丹波市の魅力を知ってもらうことや、再発見してもらえる良い機会になると思う。市内でも大学連携などにより学生が訪れて活動している。関学スタジオでの発表を聞くことや、まちあるきは面白い、人と人とのふれあいを広げてほしい。それが「帰ってこいよ」につながる。</p>
まちづくり 広報	<p>【市内の高校3校合同プロジェクト「世界一大きいモンブランをつくる」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の高校3校合同プロジェクト「世界一大きいモンブランをつくる」合同プロジェクトについて、場所・資金・PRなど市にも協力をお願いしたい。
(回答)	<p>市内3校合同の取り組みやモンブランは楽しみにしている。いろんなところに相談するために、早く決定することが大事。手段としての資金集めそのものも楽しんでほしい。また、丹波栗の確保については、生産者と相談する必要がある。</p> <p>資金集めについては、どうやってするのかを皆さんで考えてほしい。SNSで資金集めしてICT機器を市内学校に配った先輩の例もある。たくさん調べてもらって、色々な人から話を聞いてほしい。クラウドファンディングなどの方法もあり、早く立ち上げて周知をすることも必要。実施場所についても具体性をもって相談していただきたい。様々なことをまとめていただいてから、場所の提供など、一度、市長室へ相談に来ていただきたい。</p>
地域医療 定住促進	<p>【看護師以外のコメディカルを育成する施設の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療を支える人材の育成は重要な課題で、老年人口が増加しているこの圏域において、特にリハビリテーションで活躍するPT(理学療法士)OT(作業療法士)ST(言語聴覚士)の存在は貴重であり、これらの人材の育成は就労者(子育て世代)、高齢者(地元の住人)の相互にメリットがあるのではないかと考える。 <p>子育て世代のメリットとしては、住みたい場所「丹波市」で学び、就労や子育てなど丹波市への定住に繋がる。地域の高齢者にとっては充実した医療スタッフによる質の高い医療が提供され人口増加や医療体制の充実は「誰もが過ごしやすい」丹波へとつながる。</p>
(回答)	<p>看護師以外のコメディカルを育成する施設の設定やキャリアアップが可能なシステムの構築については、丹波市の医療を充実させるための医療従事者確保とキャリア向上に向けて貴重な意見をいただいた。現段階で市として何ができるかは分からないが、他地域の事例も研究しながら少しでも丹波市の医療が充実するように検討していきたい。</p>

教育 地域医療	<p>【市内図書館の蔵書内容の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の図書館を利用することがあるが、蔵書数はあっても本が古いことや、医学・看護分野の蔵書数が少ないこともあり、探している本が置いていない場合は他市へ行くことが現状です。市内唯一の高等教育機関であるため、その学生の質の向上は結果的に地域医療の質の向上につながり、地域医療の質の向上は過ぎしやすい地域へつながると考える。
(回答)	<p>市内には図書館が6館ある。勉強スペースもある。もっと利用してほしい。蔵書に関しては、専門書は市外の図書館からも取り寄せることも可能。一度、中央図書館で相談してほしい。</p> <p>また、看護師は自分で勉強するしかない職種であり、看護学校レベルの図書を一般図書館で求めるのは難しいことは理解してほしい。</p>
地域医療	<p>【キャリアアップが可能なシステム構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹波近隣の市には市民病院があるが、丹波県域には市民病院がないため、就職活動の末、県立以外の総合病院に就職したい場合は丹波市に残りたくても他市の病院にいかなければならない現状がある。仮に市民病院があれば、学校卒業後も定住する確率が増加し、子育て世代・現役世代が増加すると考える。また、県立病院の場合は県内での異動が考えられるが、市民病院では希望する限り市内で就労することになるため、定住者の増加につながると考えられる。
(回答)	<p>学生のキャリアアップを願っている。市の保健師は地元出身。戻ってきて地元で就職しているのがほとんど。ぜひ、丹波市の中で看護や医療に携わるといふ気持ちになってほしい。</p>
地域医療	<p>【市民病院の設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹波近隣の市には市民病院があるが、丹波県域には市民病院がないため、就職活動の末、県立以外の総合病院に就職したい場合は丹波市に残りたくても他市の病院にいかなければならない現状がある。仮に市民病院があれば、学校卒業後も定住する確率が増加し、子育て世代・現役世代が増加すると考える。また県立病院の場合は県内での異動が考えられるが、市民病院では希望する限り市内で就労することになるため、定住者の増加につながると考えられる。
(回答)	<p>市民病院設置には、市のお金がたくさん必要となる。そのため、県立病院を支援していくことで進めてきた。県立病院が運営できるように、市も支援している。市民病院を運営するかわりに、県と一緒に運営している。</p> <p>また、本人の意思に反して県内の他地域へ異動になることはほとんどないと思われるので、丹波医療センターを含めた市内の医療機関において丹波市の医療を支える立派な医療職として活躍されることを願っている。</p>
産業経済	<p>【市の特産品のPR・全国発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の特産品である丹波栗や丹波黒大豆、丹波大納言小豆、ブルーベリーなどを利用したスイーツなどもっと全国的発信すべき。
(回答)	<p>市としては、より多くの方に丹波市の魅力を知っていただけるよう、視覚的にもインパクトある情報発信を考えるなど工夫していきたい。個人のSNSでも広く発信してほしい。魅力発信とともに、リニューアル中のおばあちゃんの里を拠点として丹波市の特産品をPRすることが有効だと思う。丹波市を離れて暮らしている皆さんからも周囲の方々に丹波市の魅力を伝えてほしい。ポータルサイト「SATURDAY TAMBA」などを通じて情報発信するよう努めているが、十分伝えきれていない部分もある。近年は丹波市に移住された方が農家民宿やキッチン、パン工房など、お洒落で特色ある取り組みをされ</p>

	<p>ている。</p> <p>また、丹波市が取り組んでいる「ふるさと住民登録」制度は、メールでイベント等の情報を届けるほか、22歳以下の登録者には丹波市産品を贈るキャンペーンを行っているので、ぜひ、登録して丹波市の魅力を伝えてほしい。</p>
空き家対策	<p>【市の知名度を上げるための空き家の利活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家の多い集落をすべて宿泊施設として改造し、1つのテーマパークのようにしてしまえば話題性がある。また、若い世代をターゲットにするのであればピザ窯でも設置して映えるようアピールなどが必要。
(回答)	<p>近年は丹波市に移住して古民家活用の農家民宿やキッチン、パン工房など特色ある取り組みをされる方が増えている、そのような取り組みも積極的に情報発信していきたいと考えている。提案の古民家のテーマパークはよい発想。空き家の問題は丹波市でも大きな課題であるが、「空き家の多い集落をすべて宿泊施設として改造してテーマパークのようにする」取り組みは、丹波篠山市において集落消滅に危機感を持った5世帯19人の全住民が外部の専門家との協力で空き家を宿泊施設やレストランとして活用して再生を図った「集落丸山」が全国的にも先駆的な成功事例と言われている。このような取り組みにあたっては住民が主体的に取り組むことが不可欠ではあるが、丹波市としても地域課題を解決するため地域の方々と対話を重ねていくなかで、積極的に支援していきたい。</p>

8月1日(日)「女性対象」

久下自治振興会(1人)・Tプラス・ファミリーサポート(1人)・どんぐり食堂(1人)、氷上子育てサークルびよんびよんクラブ(1人)、丹波市PTA連合会(1人)、丹波市商工会女性部(1人)、丹波根っこの会(1人)

分類項目	8月1日開催【女性対象】提案意見
教育 資産活用 まちづくり	<p>【山南中学校の利活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧山南中学校を丹波市教育委員会が移転・管理され、現山南支所を「ちーたんの館」を化石学びの場・研究の場・学校教育の場、その周辺一帯をフィールドミュージアムにする。山南住民センターに山南支所機能を移行できないか。管理は丹波市で、使用は全住民に開放できないか。
(回答)	<p>廃校については、「丹波市小中学校廃校舎施設等の利活用に関する基本方針」に基づき、利活用や処分を進めていくこととしている。</p> <p>①公共活用(利活用に適すると判断した場合は、まず公共用施設としての活用)</p> <p>②地域活用(地域に密着した施設として、校区住民(地域づくりを推進する自治協議会等)が主体の活用校区等が行う公共的活用、民間活用を含む)</p> <p>③民間活用(NPO、民間企業等の活用)の順に検討することとしているが、①から③の活用ができない場合で、一定の期間(概ね5年)活用が見込めない場合は、原則処分(解体・撤去)する。</p> <p>市全域の活性化につながるといった観点や経済的な観点などから、他の活用手段より処分が優位であると判断する場合は、市が主体的に処分方法を検討し処分することを優先する。旧山南中学校については、地域の意見も伺いながら検討すべきと考えているが、基本方針に基づいた利活用を検</p>

	<p>討するうえで、現在のところ、教育委員会部局が利用するといった他の公共的な用途で利用する予定はなく、地域活用も難しいと聞いたところでは、具体的な利活用について、今回いただいた意見は大変参考になるが、ご提案のような活用方法は難しいと考えるので、民間活用（民間事業者の募集）を進める方向で検討する。</p> <p>また、山南庁舎の活用に関しては、丹波市には「ちーたんの館」「植野記念美術館」「氷上回廊水分れフィールドミュージアム」と3つのミュージアムがあるが、そのフィールドはミュージアム周辺に限定されるものではなく、市内全域がフィールドである。特に、ちーたんの館を中心とした丹波竜については、化石発見現場や丹波竜の里公園を含めた山南地域の広範囲を主なフィールドとして、地域の振興にもつなげていきたい。</p>
<p>子育て支援 産業経済 教育</p>	<p>【子育て世代への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Iターン・Uターン誘致を行う民間団体への補助 ・待機児童の解消（子ども園）、病児保育の推進 ・学校に行きづらい子どもの選択肢を増やす ・レジャー施設による地域活性化（アウトドア・体験型施設など） ・風土を活かした事業や地域の魅力を発信→地域ブランディングに力を入れる <p>“おしゃれな田舎”で若年層へのアピール</p>
<p>(回答)</p>	<p>Iターン・Uターン誘致を行う民間団体への補助については、活動内容の線引きも難しいため、実現に向けては慎重な検討が必要である。Iターン・Uターンの促進も含めた地域活性化のための取り組みに対しては、「丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金（補助率 2/3 以内・上限5万円）」もあるので活用を考えていただきたい。また、Iターン・Uターン誘致を行う民間団体（半公的）の存在し、誘致に向けた活動を行っている。</p> <p>市では、現在、入所できる施設が市内に存在するため「待機児童」という定義に基づく対象児童はいません。現在、3歳児以上の保育料が無償化になり、長時間こども園等を利用される保護者が増えたことにより、保育教諭への負担は増大している。将来、こどもの数が減少すると、定員に変更がなければ十分入所はできるが、不足もあることから、定員は縮小される可能性が大きい。そうすると空きを待つ状態は変わらないものと考えられる。このことから、本来保育の必要な方に、十分保育が提供できるよう、適正な利用に努めていただく必要がある。</p> <p>個別の学校に行きづらい子供の対応をこれまで取り組んできた背景もあり、個別に相談いただきたい。また、そのための大きな施設を作るのは難しいと考える。病児保育は積極的に進めていきたい。令和3年10月開設を目指して、関係事業費を予算計上しているが、事業実施を目指している法人の保育士不足等を理由に、予定どおりの開設が難しくなっている。今後は、新たな調整先を含めて、事業実施できる法人等を探していく。</p> <p>レジャー施設があるのは魅力的である。アウトドアが流行っており、市有施設で大杉ダムなども利用が多い。市内では民間でキャンプ場を作る動きもあり、施設が増えればいいと感じている。パラグライダーの体験や農業体験、ハイキング、化石体験などいろんな体験メニューもある。上手にコーディネートできればと考えている。</p>
<p>子育て支援 健康福祉</p>	<p>【子育て活動への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が繋がる場所、子育て世代がホッとできる場所をつくりたい。 ・届けたい人たちに私たちの情報が届き、地域の方々に受け入れてもらっ

	<p>て活動したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車が運転できない人の生活のしづらさに少しでも役立ちたい。 ・低所得や一人親家庭、障がい、疾病、高齢などの困難を抱える人たちも利用してもらい、みんなで支えあえる場にしたい。
(回答)	<p>どんぐり食堂は、がんばっておられるので応援している。ぜひ、できる支援はしていきたいと考えている。「子どもからお年寄りまで、気軽に集まって食事できる場所を各地で作ろう」、また、「みんなで支えあえる場にしたい」という居場所づくりの取り組みに対し、感謝している。丹波市においては、「丹波市地域福祉計画」や「子ども貧困対策推進計画」において、困窮の子どもだけでなく、高齢者、障がい者、その他、広く全ての方が利用でき、地域の困りごとなどの生活課題を発見し、「支援に繋げる場」、あるいは「地域住民のつながる場」として、本計画の中で、「地域（子ども）食堂」を居場所の一つとして位置づけている。この地域（子ども）食堂への支援については、現在は、県や丹波市社協の補助制度があり、これらを活用した取り組みをお願いしている。市としても、今後とも助成制度の情報提供や制度へのつなぎなど、必要な支援を行っていききたい。困っている人の情報が集まるとのことであるが、移動に困っている方への支援を考えており、困っていることを聞かれたことを共有させてほしい。</p>
産業経済 公共交通	<p>【雇用機会の拡充・通勤利便性の高い交通の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的に子ども達が大人になり、現役世代として帰ってきてもらうためには生活の基盤となる雇用機会の拡充や、都市への通勤利便性の高い交通の実現等が必要
(回答)	<p>春日部地区では、地域の子は地域で育てると看板が立っている。丹波市は、子ども達に帰ってこいよといっているが、雇用の確保は難しい。丹波市には従業員数など規模は小さくても世界的レベルの技術を有している企業や丹波市の地域資源を素材とする商品の製造に取り組んでいる事業所、また女性も働きやすい環境の整備や人材育成に力を入れている事業所などやりがいをもって働ける事業所が現在でも数多くある。しかしながらマッチングできていないのが課題と考える。人がいないといったことを心配している事業者が多い。マッチングができればうまくいくのではと考えている。鉄道が複線化できれば、都市部への時間短縮になるため、複線化を国に要望している。利便性の高い交通を実現するためにも、市民の皆様にはぜひ普段からJRを利用していただきたい。丹波市としては駅駐車場の利用料金助成やICOCAポイントの付与など鉄道利用の増進に取り組んでいる。</p>
子育て支援	<p>【子育て世代への施策・サービス・施設の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調の悪い子どもをタクシーで保育所までの送迎や、妊娠中の通院から出産のため、入退院時に子どもの習い事の送迎などの子育て世代向けタクシー会社を提案 ・子どもを保育園ではなく幼稚園に通わせる場合、保護者の出勤・退勤時間にあわせて朝は送迎時間まで、夜は退園後から迎えの時間まで子どもを預かる送迎保育ステーション施設を提案
(回答)	<p>病児保育事業では、保護者にタクシー代を負担の必要はあるが、病児保育室の職員がタクシーで体調が不良となった子どもを入所されている園まで迎えに行き、病児保育を実施している園まで送迎するサービスもある。</p> <p>また、子育て世帯向けタクシー会社については、現在、市では、社会福祉協議会によるファミリーサポートセンター事業を実施しており、利用料</p>

	<p>は必要であるが、希望があれば迎えに行き、施設まで送り届けるサービスはあるので、活用いただければと思う。また、この制度は、利用される方のニーズと、そのサービスを提供する方との相互扶助の制度である。お互いに理解しあい、この制度を多くの方が活用できるように制度の周知も含めて取り組んでいく。</p> <p>市内は幼児教育の充実からも、幼保連携型認定こども園としており、幼稚園部は、午後2時で帰宅することになるが、保護者の就労等による状況により保育が困難な場合は、朝は午前7時から夕方は午後6時まで利用が可能である。</p> <p>また、延長保育料は必要となるが、午後7時まで認定こども園の利用を可能としている。保護者の出勤・退勤の時間に合わせて、どの程度の時間まで延長保育の利用を希望されているのかわからないが、子どもの成長のことを考えれば、例えば朝5時・6時から、午後8時・9時までこどもが認定こども園等に通うということになると、一日の内2/3は園に居ることになる。子どもの立場になった時、子どもの育つ環境はどうなのかと思うところもあるので、検討のうえ利用いただきたい。</p> <p>一方で、保育教諭にも生活がある中で、子育て中の保育教諭も多くいる。その方の働き方も守る必要があるので、お互いが子どもの保育環境を充実させるためにも、適正な利用を理解していただく必要がある。</p>
産業経済	<p>【地域創生・雇用創生への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を知るために各町を巡りそれぞれの町にある事業所視察や名所、史跡を改めて再発見しようという事業を行っている。地方の人口減少、雇用創生などへの取り組みは、地元を知る人が増えると少しは解消できるのではないかと。
(回答)	<p>地元を知る人が増えると地元で愛着が生まれ、地元で暮らそうと思う人も増えると思う。ご指摘は、まさにそのとおりであると感じる。そのなかで、地域再発見に取り組んでおられるのは素晴らしいと思う。その土地の魅力が体感できることは、大変重要と考える。</p> <p>自分たちの地域の魅力が何かを意識し、その魅力を地域自身が発信していくことができれば地域振興につながる。丹波市では10～30代・女性・阪神圏を人口減少対策の政策ターゲットとしているが、女性ならではの価値観が尊重される地域であることや女性目線の情報発信が重要であると考えており、地域再発見の取り組みのなかで気付かれたことがあれば教えていただきたい。</p>
農業振興 定住促進 産業経済	<p>【田舎での生活モデルをPR・活性化につながる特産品のPR】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの農地があるなかで、農地を保全し収益を生むサイクルができることで農業に取り組んでみようとする人や都会に出ている子を呼び戻す要因になる。 ・丹波市の特産物等についても知られていない、活性化につながるようなPRをうまく行っていく必要がある。 ・地域としても丹波の良さをうまく活用し、地域として活性化させていくように取り組んでいく必要がある。 ・移住となるとハードルが高いため、田舎での生活モデルが見せられるような取り組みができないか。
(回答)	<p>春日インター、高速をくぐったら一面に栗林の光景が広がっていることができないかと考えたことがある。愛媛のみかん畑のように、丹波栗をアピールすることが必要でないかと議論したことがあるが、栗栽培は大変難</p>

	<p>しい。</p> <p>また、農業で生計を立てるのは、難しい。今後、田んぼはどんどん安くなる。農業をやろうとする人は田んぼを手に入れることは可能になってくる。市として支援できることは支援する。</p> <p>移住については、これまでの移住対策は空き家の利活用と移住支援が密接していたことで、良好な空き家がなければ移住につなげられないという課題があった。指摘のとおり、移住はハードルも高いので、戸建ての空き家に加えてアパートなどの賃貸物件も紹介できるよう検討を進めている。</p> <p>お試し移住についても、お試しワークを含めて検討するなど、今回の提案も含め移住ニーズに応じた多様なバリエーションを提供できるよう取り組んでいきたいと考えている。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

8月 8日 (日)「一般・団体対象」

たんば“移充”テラス (2人)・個人事業主 (1人)・株式会社 IPP0 (1人)、丹波市地域交通活性化協議会 (1人)、丹波市商工会事務局 (1人)、農の学校事務局 (1人)、丹農の学校卒業生 (1人)、森の都研究所 (1人)

分類項目	8月8日開催【一般・団体対象】提案意見
定住促進 産業経済 教育 まちづくり	<p>【帰ってこいよと言えるまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策の方向性 (Uターン誘致) は理解できるが、打って出る名称として『帰ってこいよ』は向かないのではないかと感じている。理由は大きく三つ。 ①帰ってきたい人は勝手に帰ってくるので、施策の対象は「帰りたくない人」「帰りたいけど帰れない人」であり、その人たちに帰ってこいよと呼びかけるのはほぼ金策になる可能性が高い。 ②シビックプライドの醸成が、間接的に移住促進 (Uターン誘致) に繋がる流れを想定すべき。 ③『帰ってこいよ』は元丹波市出身者にのみ向けられる言葉である為、IJターン希望者を軽視する印象を与える。 <p>【誰もがくらしやすい丹波市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点で最も充実させる必要がある世代 (現役子育て世代) に集中し、段階的に全ての人を包括できるよう計画すべき。 ・人口ビジョンに照らし合わせると、長期的に地域に貢献し担い手として定着してもらえ若い世代を移住定住のターゲットとすべき。 <p>【子育て世代・現役世代が魅力的に感じる丹波市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用されていながらも右肩上がりに収入があがる環境 ・グローバルな社会に通用する人間を育てられる、子供の学習環境 ・不要かつ不毛と感じられている自治会行事の廃止、削減 <p>【帰ってこいよ・帰ってきたいと声かけ合える丹波市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住相談窓口からの対外的な働きかけに加え、行政としても、あらゆる担当課が移住促進を念頭に置いた事業を行っていくこと、また担当課でも直接的に移住ハードルを下げるような取り組みが必要。

(回答)	<p>実体験として、移住を支援しているのを知っているので。帰ってこいよというのは、移住の問題があるが、全般的に丹波市民が出ていく問題を帰ってこいよ、でつないでいきたい。「来たい、住みたいまちに住む」こと、「出て行かないで」といった意味合いもある。インパクトある言葉で、「帰ってこいよ」を使っている。親が自分の言葉で子どもに言葉をかけてもらう。丹波市民一人ひとりが、子供に言っていく話である。帰ってこいよといえるまちづくりに向けて、遠い話ではあるが、一つひとつ進めていかないといけない。子育てをメインプロジェクトに進めており、今年度はハッピーバースの取り組みを実施。公園施設の充実を図りながら、全庁をあげて移住定住を見据えた施策を展開するような雰囲気づくりをしている。</p>
総合政策	<p>【「帰ってこいよ」と言えるまちづくり施策の定義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「帰ってこいよ」の議論は、「価値観（こころ）の問題であり」あまり行政が積極的に介入する政策ではないと思う。予算（お金）が必ずついてくる。数値化できる施策をお願いしたい。
(回答)	<p>帰ってこいよ、は市から出て行かないでの意味もある。経済的には、働くところがないと住み続けられない。働く人がいないといった意見を聞く。仕事があるのに出て行くのが課題である。若い人に地元の職場を紹介していくマッチングを行いたい。どの企業も地元の人が欲しい、紹介して欲しいと聞いており、それに注力したい。</p>
産業経済 定住促進	<p>【市との連携による取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナに向けた、事業の再構築支援や丹波の地域資源を活かした特産品の開発や新たなサービスの提供等を構築するなど、新たなビジネス構築に向けた支援機能を拡充強化していきたい。 <p>【20歳～30歳代の若い世代のUターンを支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの年代の方に帰って来て欲しいと考えるのかにより、やり方は異なる。20歳～30歳代の若い世代のUターンを支援するような施策があれば良い。
(回答)	<p>年収500万を保証しないと、家も建てることができない。大学にもやれない。社員に丹波に住んでもらうための経営者を育てていかないといけない。市民が未来の担い手になってもらおうという視点の経営者が育ってほしい。</p> <p>また、就労して2年～3年で転職する方が多い。遠方からの就職活動は難しい。いかにそのような子どもに、市内の企業情報を伝えるかが課題である。</p> <p>ふるさと住民登録制度で、企業紹介、移住希望者への移住インターン、子育てしやすい企業が増えていくように働きかけをしていきたい。今、住んでいる人が自身をもって丹波市がいいとことを言うことが大事。多様な働き方ができる環境をもった企業ができるように市も頑張っていく。</p>
農業振興	<p>【有機野菜のPR・地元野菜の活用拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「有機の里」の認知度が意外と低いということも感じる。有機に限らず美味しく新鮮な野菜がすぐ近くで手に入るの、学校給食での地元野菜の活用や、スーパー等での地元野菜コーナーの拡充 <p>【移住者に向けた市民農園などのサービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住者で特に子育て世代の方は野菜作りへの関心も高い、アパート住まいなど畑を借りることが難しい方に向けて市民農園などのサービスを提案

(回答)	<p>農の学校では第1期生8名、第2期生6名が市内で農業に就職した。環境創造型農業の推進を掲げている。農薬減、有機農作物を作ろうとしている。丹波おばあちゃんの里で有機農作物を販売するなどみえるかたちに。他の指定管理施設へも波及させていく。農地の取得も農業振興課へ気軽に声掛けができる環境を整備する。総合窓口も必要だと考えている。</p> <p>若いお母さん方が有機農作物の給食を希望している。給食で使用するためには、期日に農作物を揃えなければならない。そのようなお母さん方の相談にもものってもらいたい。</p>
まちづくり 広報 農業振興	<p>【地域のルール案内や若い世代に向けた地域情報を発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所付き合いの方法がわからず戸惑うことがある。転入時等のルールが記載された案内などがあれば良い。また、地域によっては、住むところの選択肢が少ないことや若い世代が行きたいと思う場所の紹介が少ないため情報発信が必要。 <p>【獣害対策への支援や新規就農者に対する支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人単位ではなく広い範囲での獣害対策（電気柵等）の支援が必要。新規就農者として農業をはじめめるために農地が必要となりますが、少しでも条件の良い農地が借りられる仕組みがあればもっと農業が始めやすいと感じる。
(回答)	<p>田舎ならではのルールはあると思う。転入時にルール等が記載された案内があればいいとの意見については、転入時に窓口で「丹波市暮らしのガイド」と「防災マップ」の冊子を渡すほかゴミカレンダー、ゴミ分別ガイドを案内している。</p> <p>また、移住相談窓口を通じて移住される方には担当者から「丹波市暮らしのガイド」の冊子とゴミカレンダー、ゴミ分別ガイドを渡している。日役などは自治会によってもルールが異なるため一律に案内することはできないが、今回のご意見も参考に改善すべき点がないか検討する。</p> <p>また、若い世代が行きたいと思う場所の紹介については、ポータルサイト「SATURDAY TAMBA」などを通じて情報発信するよう努めているが、十分伝えきれていない部分もある。近年は丹波市に移住された方が農家民宿やキッチン、パン工房など、お洒落で特色ある取り組みをされている。</p> <p>獣害対策については、できる限り広範囲で電気柵等を含む獣害防護柵を設置し、設置後の日常点検や修繕作業等、被害防止にかかる活動の活性化を促進するため、農会や自治会単位での「地域ぐるみ」での取り組みを推進している。野猪等被害防止策等設置事業などの補助制度も設けており、資材の80%は市が支援する。大きなブロックで獣害対策をすれば効率的である。ぜひ、最寄りの農会に相談してほしい。</p>
公共交通 教育	<p>【子育て世代の移住検討者からみる公共交通・教育環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICカード利用が開始され、以前より利便性は向上したが、乗り継ぎの問題があり市内の駅の利用を控える方は多いと感じる。また、移住先で検討するのは医療、福祉、教育に加え、子育て、治安など丹波市はどの分野に重点を置いているか。移住対象者において教育の分野を重視する世代が多いと感じている。
(回答)	<p>篠山口からの電車利用は便利にはなっている。前には進んでいるが複線化は実現化しておらず、交通の便は不便であることはいなめない。</p> <p>利用者が少ないので、複線化はできないとのJRの意見である。丹波市に住んで良いところは見つけてほしい。生活にもっと便利なところはたくさんある。また、教育の問題があるかもしれないが、自分自身も子育てに</p>

	<p>参加した。どこに生活の価値観を持つのかを含め、丹波市の良いところを見つけてほしい。</p>
公共交通	<p>【安全安心で持続可能な公共交通サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活交通であるデマンドタクシーと基幹交通である鉄道や路線バスとの連携を強化し、アフターコロナを見据え、新しい生活様式に適応した持続可能な公共交通サービスの提供や、安全で円滑に移動できる公共交通が維持されたまちづくりが重要であり、地域交通活性化協議会としても議論していきたい。
(回答)	<p>丹波市では夢と希望と誇りを持って住み慣れた地域で暮らし続けていただけるよう利便性の高い移動環境の実現を目指し、地域公共交通活性化協議会でご協議いただきながら公共交通の充実に向けて取り組んでいる。地域公共交通活性化協議会からは昨年度「丹波市における公共交通システムのあり方に関する検証結果」を報告いただいた。その報告も踏まえて今年度は9月からデマンド（予約）型乗合タクシーの木曜日運行にかかる社会実験を行う。また、周辺地域から丹波医療センターへの移動手段について検討いただきたい。公共交通は市民生活になくてはならない社会インフラであり、これからも丹波市スタイルの公共交通が維持・発展できるよう引き続きの協力をお願いしたい。</p>
林業振興 環境政策 総合政策	<p>【子どもたちが帰ってきたくなる美しい里地里山景観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「森林づくりビジョン」で、単なる林業施業面積の計画ではなく、保健・レクリエーション機能などの8つの森林の多面的機能を具体的に数値評価し、目標達成度を追跡する仕組みを備えてほしい。 ・「第二次環境基本計画」で、生物多様性保全の具体的施策がまだ充実していない。また、森林・河川・農地が一体となった景観価値の向上も数値目標化するように、各課で動いてほしい。 ・「総合計画」で、農地保全、河川管理、森林づくりを含めた市全体の景観整備に係る長期ビジョンを具体的に掲げ、美しい里地里山の景観が、多くの人たちを引きつける魅力として未来に継承されるルールを敷いてほしい。
(回答)	<p>林業を通じた経済活動とともに、水資源の確保や山地災害の防止、保養や森林浴など保健・レクリエーション、景観や教育などの文化、さらには二酸化炭素吸収による地球環境の保全など、多面的な資源を有している大切な資源である。平成24年9月策定から10年を迎える本ビジョンの改訂作業を進めるにあたり、現在における社会情勢の変化や基礎数値の更新を図るとともに、現ビジョンの総括・課題整理・多面的機能など、可能な範囲で数値化できるものは、丹波市森林（もり）づくり協議会や、今後、選出予定の丹波市森林づくりビジョン検討委員会において検討していきたい。里山に関して、美しい里山景観は丹波市の貴重な地域資源であるとの認識のもと、市の総合計画では「自然と歴史文化が織りなす里山景観を守り育てよう」として、「農地の保全や里山景観などに配慮した開発指導を行う」「緑豊かな森林の保全や里山の眺望景観を確保する」ことなどを掲げて取り組んでいる。今の総合計画は令和6年までとなっているので、次の計画を策定する際には今回のご意見も参考にしたい。</p>